

RCA+IIS DESIGN LAB

世界に誇るデザインラボを東京に

Kinya Tagawa

CEO, Takram

Visiting Professor, Royal College of Art



東京大学
生産技術研究所

Institute of Industrial Science,
The University of Tokyo



Royal College of Art

Postgraduate Art and Design

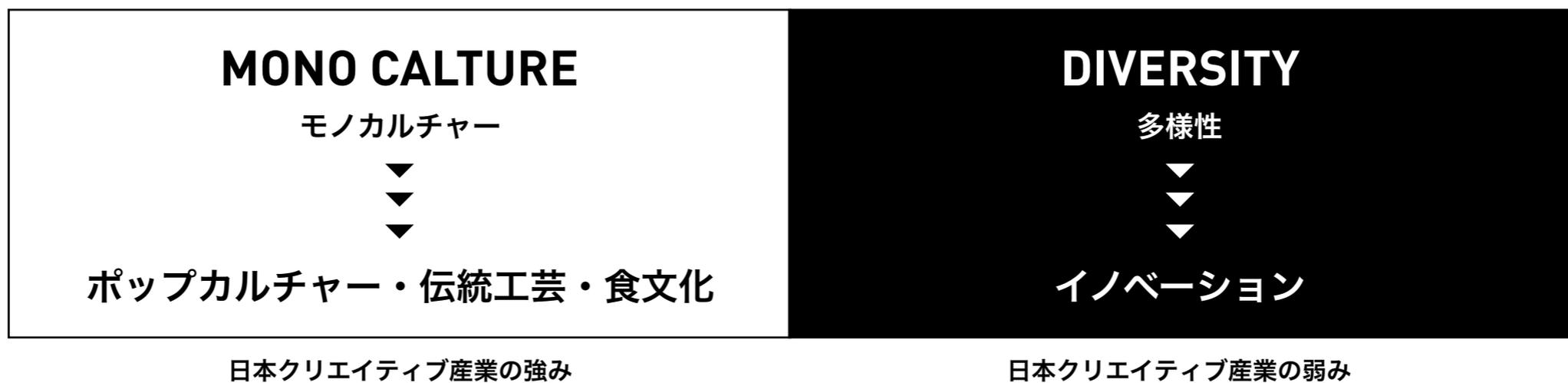
WHAT'S THE OPPORTUNITY?

Q: 日本のクリエイティブ産業の強みと弱みとは？

日本のクリエイティブ産業の強みは、モノカルチャーゆえのハイコンテクストなコンテンツ群。漫画やアニメに代表されるポップカルチャーや、細部に至る高い完成度を誇る伝統工芸・食文化などは、正に世界に誇るレベルです。

しかし、その強みは同時に日本のクリエイティブ産業を狭い領域に閉じ込めている理由ともなっています。

ロンドンやニューヨークなど世界最強のクリエイティブ都市には、世界中から優秀なクリエイターが集い、豊かな多様性の中で、日々新しい取り組みが生まれています。デザインの力が技術やビジネスと掛け合わさることで、イノベーションが生まれ、その価値が世界に向けて発信されています。現状の東京には、このような多様性・イノベーションという特徴が弱く、それが世界における東京のクリエイティブ都市としての弱みになっています。



未来の日本はこれら両方を備える必要がある

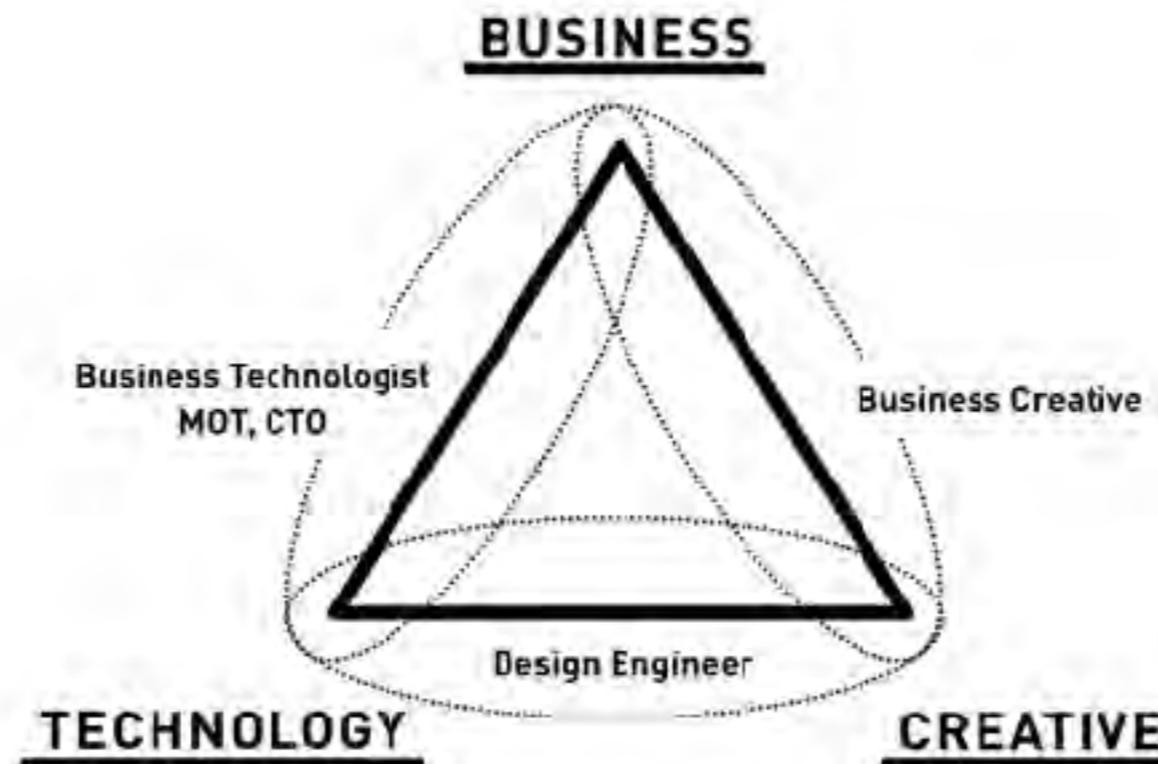
WHAT'S THE OPPORTUNITY?

Q: クリエイティブをイノベーションの原動力とするためには？

日本は歴史的に、B(ビジネス)とT(テクノロジー)を結ぶ人材や仕組みが豊富であり、BT型人材が産業におけるイノベーションを牽引してきました。組織的枠組みとしてもCTOのポジションが多くの日本企業で採用され、MOT教育も一定程度浸透しました。

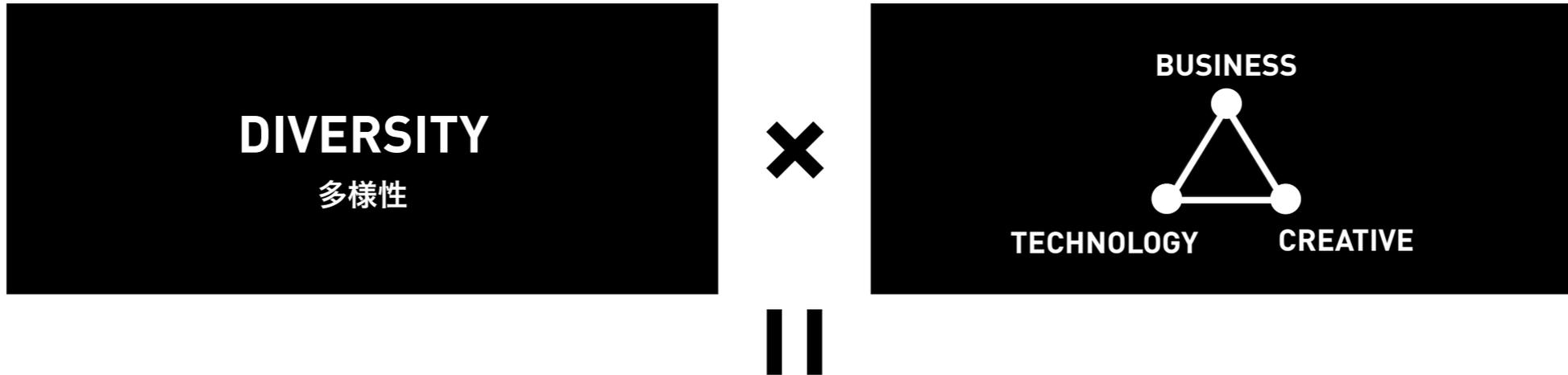
しかし、時代はポストIT世代に突入し、世界ではクリエイティブを上手く活用する企業がイノベーションの騎手として活躍するようになりました。その中で、イノベーション人材としてのBTC型人材が注目されるようになりました。

一方、日本ではBとC、TとCの結合が弱いまま、それが産業の競争力を弱めています。いま、BとC、TとCの結合を強化するためのデザイン教育・啓蒙が必要となっています。



BASIC CONCEPT

デザインラボの基本コンセプト



世界に誇るデザインラボを東京に

世界の中で日本のクリエイティブ力を高め、そして発信していくための拠点として、
東京に世界トップレベルのデザインラボを設立。



RCA-IIS DESIGN LAB

東京大学生産技術研究所(IIS)と、世界最高峰の芸術大学である英国ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(RCA)が、
共同のデザインラボを設立。2017年1月に第一期(実証試験フェーズ)をスタート。2018年の本格運用開始を計画。



東京大学
生産技術研究所
Institute of Industrial Science,
The University of Tokyo



Royal College of Art
Postgraduate Art and Design

ACADEMIC PARTNERSHIP

デザインラボの母体

東京大学生産技術研究所(IIS)と英国ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(RCA)が共同で、世界最先端のデザインラボを東京に作ります。このデザインラボを拠点に、グローバルな視点からデザインとエンジニアリングの融合を実現し、研究開発・人材育成・産業創出・コミュニティ形成を加速させます。デザインラボの本格運用(2018年)の前段階として、2017年にデザインラボの第一期(実証試験フェーズ)を始動させました。

東京大学生産技術研究所(IIS)

工学のほぼ全ての分野をカバーする東京大学の付置研究所です。5つの研究部門と研究センター群から成り、約160の研究室が活動しています。工学の諸問題の解決・学問と実践の橋渡し・人材育成を使命としています。古くはペンシル型ロケット(糸川英夫)や二酸化チタンの光触媒機能(本多健一、藤嶋昭)を生み出し、現在も「自律して海底海中を探査する海中ロボット」「生体分子を操るナノ・マイクロマシン」「チタンなど希少金属の製造技術」「職人の技と3Dプリンティング技術の融合による美しい義足」「木・石・土などの自然素材を活用する建築」「奈良の大仏など歴史的建造物のアーカイブ化と複合現実空間における再現」など、オリジナリティー溢れる技術を生み出しています。世界中から多くの研究者・留学生が訪れる、テクノロジーのクールジャパン拠点と位置づけられます。



東京大学
生産技術研究所
Institute of Industrial Science,
The University of Tokyo

ロイヤル・カレッジ・オブ・アート

イギリスのロンドンにある王立の美術大学。修士号と博士号を授与する美術系大学院大学としては世界で唯一の学校。2015年のQS世界大学ランキングではアート・デザイン分野で世界1位に選ばれています。多方面に著名なアーティストやデザイナーを排出し続けており、世界最古の美術大学でもあります。1980年代からデザインエンジニアリング教育を続けており、この分野の世界的教育リーダーでもあります。



Royal College of Art
Postgraduate Art and Design

KEY STRATEGIC POINTS

キーとなる戦略

1. 世界最高水準のデザインラボ

世界の中で日本のクリエイティブ力を高め、そして発信していくための拠点として、東京に世界トップレベルのデザインラボを設立。このラボには、世界中から才能あふれる若手デザイナー・エンジニア・リサーチャーが集まり、開かれた環境の中で活発にプロジェクトに取り組みます。東京大学生産技術研究所(IIS)と、世界最高峰のアート・デザインスクールである英国とロイヤル・カレッジ・オブ・アート(RCA)が母体となり、人材面・ノウハウ面における協力体制を構築することで、世界に通用するラボを実現します。

2. 日本の課題を世界中の才能と解く

世界中から集まる才能と、日本の課題や日本の誇る特徴を結びつけ、プロジェクトを起こします。例えば、少子高齢化やエネルギー問題をデザインアプローチで解決するプロジェクトや、日本の素材技術や伝統工芸とデザインを結びつけたプロジェクトなど、日本固有のものを、様々な文化バックグラウンドを持つデザイナー達が解釈し、ソリューションとして構築することで、世界に対する発信力のあるプロジェクト・コンテンツを生み出します。

3. オープンラボ戦略

このデザインラボは、IISとRCAの2つの大学以外にも広く開かれた場所となります。企業との連携プロジェクトの組成（コーポレートマイクロラボ）や、ワークショップ・レクチャー・カンファレンス等を通じたオープンコミュニティの育成などを通じて、社会との接点を構築していきます。その象徴として、東大キャンパスの外に、サテライトスペースを設置します。

4. 高度クリエイティブ人材の土着化

このデザインラボは①世界から才能を呼び寄せ、②彼らに日本の課題を解いてもらい、③交流を通して日本に愛着を持ってもらう、ことを実現します。外国籍のメンバーに対しては、積極的に日本語教育も実施し、ラボを離れた後も、日本文化の伝道師としての役割を担ってもらいます。このデザインラボを経由して、メンバーの中からそのまま東京に移住する人も出てくるでしょう。日本のクリエイティブにダイバーシティを埋め込むことも、このラボの目的の一つです。

5. BTC型クリエイティブ人材の教育

このデザインラボでは、テクノロジーとクリエイティブ、ビジネスとクリエイティブをつなぐ人材やプロジェクトを優先的に扱います。BTCの有機的結合を活用してイノベーションを生み出すアプローチをこのラボの一つの特徴とします。プロジェクト以外でも、BTC型人材育成のためのレクチャーなどを定期的に開催します。

KEY STRATEGIC POINTS

デザインラボの活動内容



デザインと工学によってクールジャパンを推進

1. マイクロラボによるイノベーションプロジェクトの実施

マイクロラボは、デザインラボの中核をなす仕組みです。RCAを起点に世界中から集まる才能と、日本の課題や日本の誇る技術を結びつけ、プロジェクトを実施します。例えば、少子高齢化・エネルギー問題など日本の課題や、ロボット・素材・精密加工技術などの日本の技術など、日本固有のテーマ性を有するものを、国際性豊かで様々な文化バックグラウンドを持つ外国人デザイナー達と協力して、世界に対する発信力のあるデザインプロジェクトとして実施します。

2. レクチャー・ワークショップ形式による教育

デザインラボのメンバーだけでなく、外部の産業界やアカデミア、そして一般の方々に対しても、デザインがイノベーションに貢献するための方法論を広めていきます。(A)RCA講師陣によるデザイン手法のレクチャーの実施、(B)デザインを活用するイノベーション創発ワークショップおよびレクチャーの実施（参加者はIIS・RCAメンバーに加え、一般企業からも募る）、(C)イノベーションワークショップのコア手法を伝授するレクチャーの実施（参加者はIISおよび他大学の講師・教授を想定）を実施します。

3. 展示会・カンファレンスを通じた国際的コミュニティ およびネットワーク形成

定期的に展示会・カンファレンスなどを実施し、国内外をまたぐコミュニティの育成を促進します。

4. 国内外に取り組みを広めるためのPR活動

デザインラボの活動内容を伝えるためのPR用のウェブサイトやムービーの作成を行います。また国内外のメディアとの連動や、RCAのPR機能を活用することで日本国外へのPRを推進します。

WORK IN PROGRESS

デザインラボの現在の状況

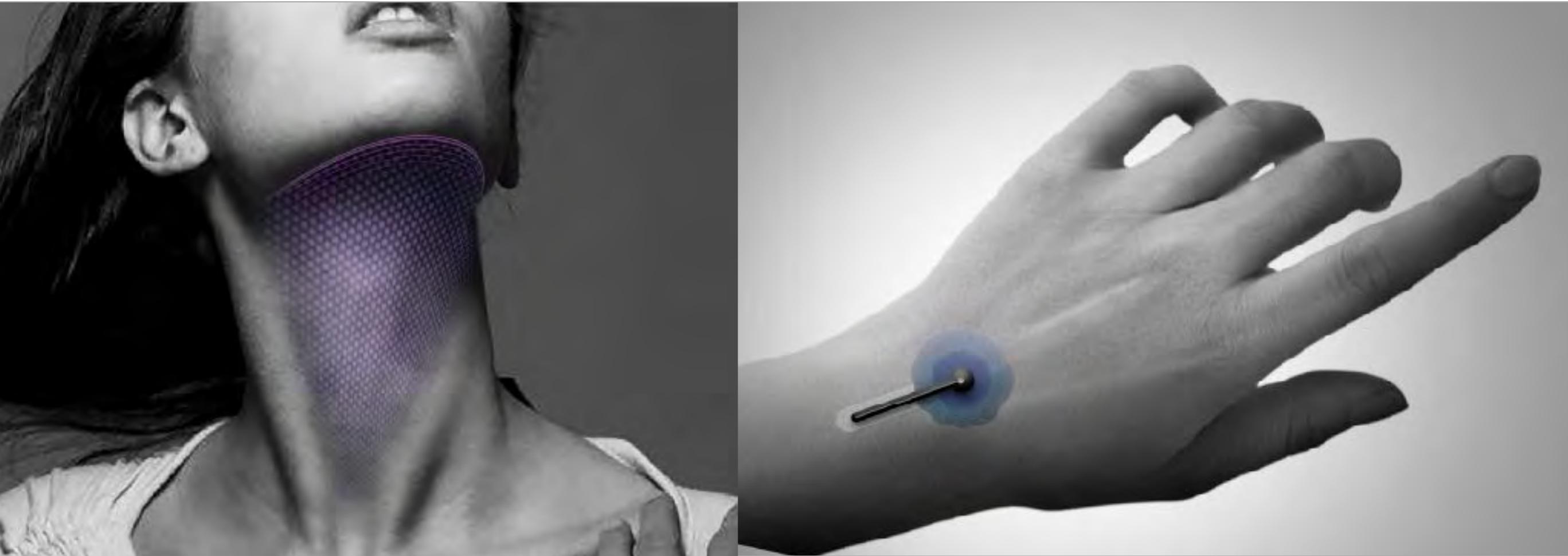


東大駒場キャンパスに設置されたデザインラボの様子。国際性豊富なチームがデザインプロジェクトに従事

- ① 2016年11月にRCA-IISの間でMOUを締結。
- ② 2017年1月にデザインラボの第一期（実証試験フェーズ）を設置。RCAからリサーチャー・教授陣が来日・滞在。
- ③ 2017年3月末に第一期プロジェクトの成果報告会を予定。
- ④ 2017年4月以降も実証試験フェーズを継続。同時進行で、2018年の本格運用開始を目指して計画を加速。

WORK IN PROGRESS

デザインイノベーションプロジェクト・企業との連携が進行中



現在「バイオセンサー」「コンピュータビジョン」の二種類のデザインプロジェクトが進行中。写真はコンセプトイメージ

- ① 現在2種類のデザインプロジェクトが進行中。東大のコア技術の応用をデザインアプローチで検討。
- ② RCAメンバーとIISメンバーが混成チームを構成。テクノロジーとデザインの間を越境するコンセプト立案が進行中。
- ③ 2017年3月末にコンセプトおよびプロトタイプの展示を、東京大学駒場キャンパス内にて実施予定。

WORK IN PROGRESS

カンファレンス・レクチャーを通じたコミュニティ作り

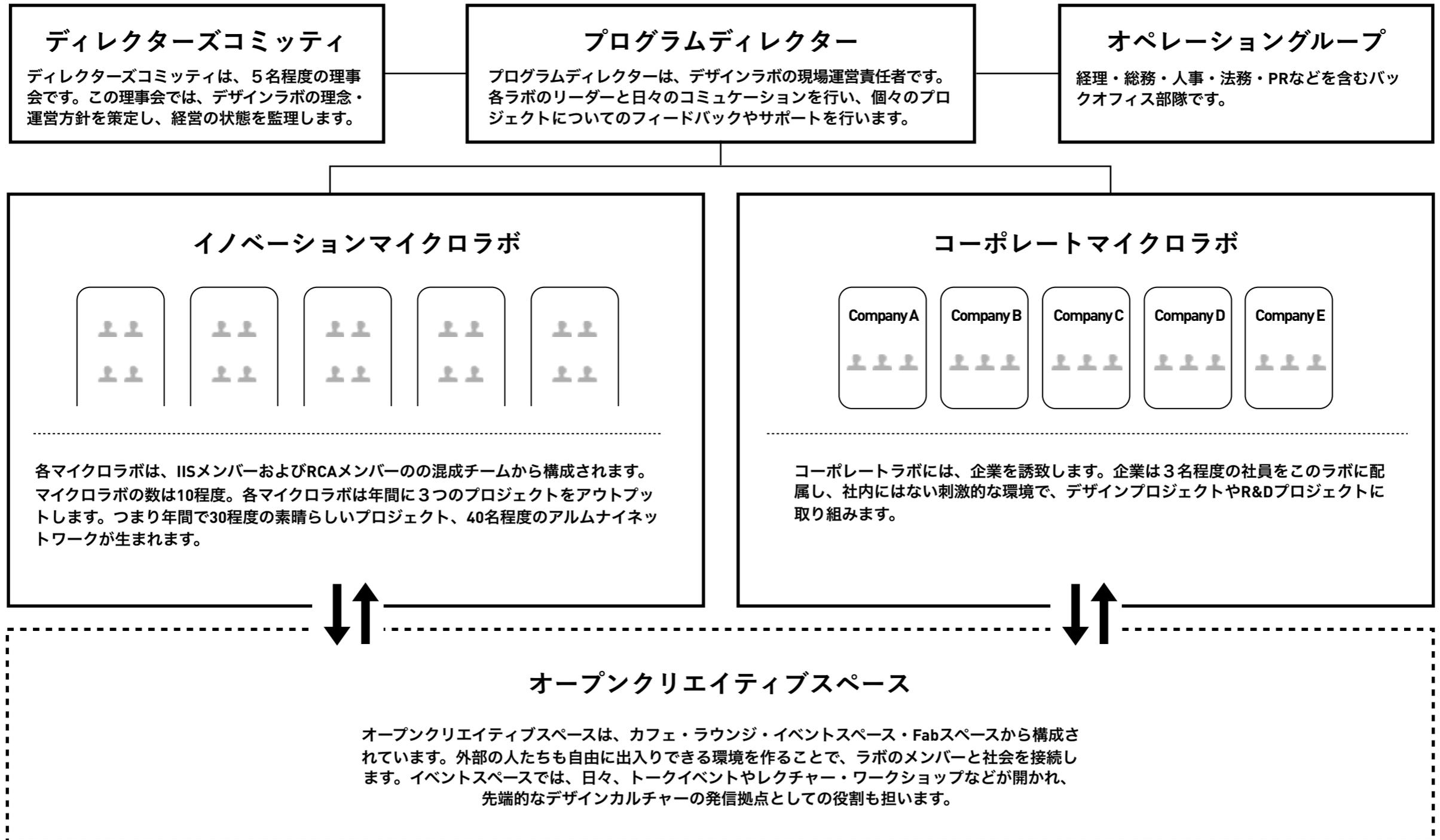


2016年12月に開催されたカンファレンスの模様。国内外の有識者を招いて講演が行われた

- ① 2016年12月にキックオフカンファレンスを青山にて実施。教育機関・企業からデザイナー・経営者が参加。
- ② 2017年2月にRCA教授陣による公開ワークショップを実施。企業から約50名が参加。
- ③ 2017年3月末に第一期プロジェクトの成果報告会を六本木ヒルズにて予定。

BASIC STRUCTURE

デザインラボの基本構造



SPACE ALLOCATION

スペースについて

TOTAL 3000 msq

ACADEMIC RESEARCH GROUP
1200msq

OPERATION GROUP
200msq

CORPORATE RESEARCH GROUP
600msq

OPEN CREATIVE SPACE
1000msq

The collage features several photographs: a meeting with people seated around a table; a man working on a laptop with a complex wiring setup; a large open-plan office with people working at desks; a man in a white shirt working on a small object; a man pointing at a computer monitor; a group of people sitting on the floor in a room with a large screen showing a face; a group of people gathered around a long table with various tools and materials; and a bright, open-plan space with people sitting at tables.

ROAD MAP & MILESTONE

ロードマップとマイルストーン

